



↑MOONLIGHT MARCHIONNE  
↑L'ÉTÉ DE MOONLIGHT MARCHIONNE  
↑L'ÉTÉ DE MOONLIGHT MARCHIONNE  
↑L'ÉTÉ DE MOONLIGHT MARCHIONNE

↑MOONLIGHT MARCHIONNE  
↑L'ÉTÉ DE MOONLIGHT MARCHIONNE  
↑L'ÉTÉ DE MOONLIGHT MARCHIONNE  
↑L'ÉTÉ DE MOONLIGHT MARCHIONNE



## INTERVIEW

# NEWEST MODEL & MESCALINE DRIVE \*

取材・文／早川加奈子 協力／キング・レコード

### ソウルフラワー・レーベル移籍の置き土産はベスト盤

独自のスタイルと音楽性を持つニュー・エストモデルとメスカリン・ライヴ。お互いに多大な影響を与え合っているこの2バンドが設立した『ソウル・フラワー・レーベル』がメジャー契約したのが89年。そして今回4年間に在籍したキングを離れることにあたり、ニュー・エストは全5枚の、メスカリン全3枚のアルバム及びカバー曲、シングル曲、そして新曲を含む各々のベスト盤を発表。レーベル移籍のことなどについて、ニュー・エストの奥野真哉(Key)、河村博司(B)、V、メスカリンの内海洋子(V)の3人にインタビュー。

——プライベートでも一緒に行動されることが多いんですか。  
内海「そうですね、ライヴとかそういう大きいものがない時はほとんど毎日顔を合わせてるわけですから(笑)」  
——(笑) 約4年前にキング・レコードと契約されて、で今回それが切れるということですが、キングで出してきたことを振り返ってみると、  
奥野「キングには割と自分達のやりたいうふうにやらしてもらったからね。」  
——でもまたキングと契約を更新する、というわけじゃなくて移籍ですよな。  
他でやりたかったってことですか。

河村「やっぱり僕らのやりたい方針とか考え方がキングの上の方と噛み合わなかったっていうか。レコード制作の段階でジャケット作ったり、チラシの版下考えるとか、そういう部分まで全部やってきたから、やっぱり僕らもそこまでのことやってるから、今度はそれ以降の『じゃコレ売って下さい』

というところまで気になってくるわけですよ。その部分で不満があればそこで衝突するし」  
内海「本当はね、そういう金銭的なことなんて気にしたくないですよ、こっち側としては、それを気にしないで。で、今度はそういうコトは気にしなくていい、という話なので。やっぱり(音楽に)専念したいわけだから。今までやってたことはするつもりですよ。それ以上のことを今度は求める、と」

——メジャーでやっていると、音楽活動以外の仕事もありますよね。キャンペーンとか。そういう活動で納得できないようなことはなかったですか。  
内海「いや、そういうことではないけど、河村「インタビュートかも嫌々やってるんじゃないかって、俺らのやってることが面白いから、例えばライヴやレコードを聴いて、『一緒に面白いことやろうや』っていうことが言えるわけだから」  
奥野「俺らのごとに来るインタビュートの人らって、とんでもない人はいなくて(笑)。何が覚悟して来るようなところあるね。それに大阪にいるから割と(仕事を)選んでできるからね」  
内海「東京にもしいれば、また事情は違ってたかもしれないけど、こっちにいるし、自分達で選べるし、嫌だっていうのはやらないし。だからそういうマイナスなことはないな」

——今回キングからそれぞれのコンピレーション・アルバムが各1枚ずつリリースされましたが、例えばソウルフラワーとして2バンドで一枚のオムニバスという形をとらなかったのはどう

してですか。ライヴやレコーディングはもちろん、お互いにアルバム制作にも参加しているのに。」  
河村「ニュー・エストはニュー・エスト、メスカリン・ライヴはメスカリン・ライヴとして、それぞれに特色があるからね。ごちゃ混ぜにしてはつきり伝わらなくしてしまうってコトもないと思うから。それぞれの色合い、主張をそれぞれが出すっていう形が普通やと思うから」

——もちろんバンドは個々のものから、一枚一枚出すというのは納得できます。でもレーベルとしてのコンピレーションという『方法』もあつたわけですよな。  
奥野「割とね、メスカリンという名前が、ニュー・エストの後、的なメディアの捉え方みたいなものがあると思うんです。だからコンピレーションにしたから、ま、ソウルフラワーでのが前面にでるんやろうけど、ニュー・エストがいてメスカリンがいる」というような図式があんまり変わらないと思っからね。今年は今もう少しメスカリンというものを尊重できる形でやっていきたいと思っただけからね」

3月5日に発売された『カウンター! センサーシッパーニュー・エストモデル 89〜93』と『レスベクティブル・シングルズメスカリン・ライヴ 89〜93』の2枚のベスト盤。今後どんなベスト盤がキングからリリースされるよと(笑)、自分達が選んで作ったベストなベスト盤はコレだからね、と内海洋子は語っていた。

インタビュー

# コモエスタ八重樫

イギリスの霧のかかる  
古城のようなソロ!?



2月に解散してしまった東京パノラママンボボーイズの中心的存在だったコモエスタ八重樫氏。初のソロアルバム『恋は水色』ではマンボやラテンとは全く違った一面を披露し、氏が選曲した60〜80Sの日本の歌謡曲のオムニバスでさらにそのキャパシティの広さ(ゆ)で魅せてくれ、新たなユニット、東京タットサンも入浴という今、その活動は非常に気になるところだ。

まず東京タットサンについてお聞きしたいんですが…。

「東京ビートニクス」のために作った3人のユニットなんですけど、メンバーは吉田孝さんと反町明さんと僕が基本で、あと10才の女の子が入ります。タットを使って3人でやるカラオケグループですね(笑)」

反町さんで東京リズムキングスのメンバーで、イラストレーターの…。

「そうですね。でもあれはもうなくなっちゃいましたけど。で反町くんはずすごいラテン好きなのね。でも実はカラオケ野郎なんです。結構日本ものが好きなんです。歌謡曲はお得状態で。タットサンは日本語の歌はっかなんで、彼のムードに合ってる、張り切ってる」

「そのユニットのレコードは…」  
「それはまだ考えてないんです。とりあえずこれは東京ビートニクスというイベント用なんです」

「イチク、日本コロムビア、東芝EMIの3社から『東京ビートニクス』という昭和30〜40Sの珠玉の歌謡曲を集めたオムニバスが全部で5枚でまじますが、すべて八重樫さんの選曲ですね。」

「そうですね。タットサンのシンガーやってる女の子の歌がね、本当に古いんだよね。弘田三枝子とか、あっち系の歌なの。今のコってビチカート系というか、ソフトなフレンチ系じゃない。でも全然違う。大笑いするよ。反町くんも結構イクゼノみたいな歌い方だし」

「メトロの前に渋谷のオンエアで既にライヴをされましたが、反応は？」

「結構受けてたよ。だってバカだもん(笑)。一応ビチカートのイベントで、マンボボーイズも出ただけ。タットサンでタットでしょ?で歌うのは『君とボク』みたいな明るい曲はっかだし。GSとは違うもって古臭いやつで。笑いながらもみんな楽しんでたんですけどね。」

「ビチカートにする、タットを使うんですが、マンボボーイズにしてもDJがあつて、それに生楽器が加わる、というスタイルですね。」

「タットって結構今誰でも使ってるじゃない?電気グループだってみんなタットなわけでしょ。それを言わないでみんなやってるんだけど、敢えて『タットのカラオケだよ』と言ってやるというのがタットサンの良さ、かな。基本的には一応コーラスグループですからね(笑)。東京ビートニクスは昔の音源なんで、イベント化するの難しいですよ。DJイベントでレコード回すだけじゃちょっと寂しいし。だったらそれを歌うグループがいた方がいいんじゃないか、と。で探すよりも自分でコンセプトやカラオケも作れるし」

「では念頭にはいつもクラブがある、」

↑「恋は水色」/コモエスタ八重樫

↑「東京ビートニクスVOL.2」/クール・キャッツ(弘田三枝子他、日本コロムビア)



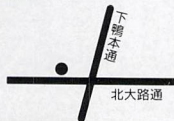
## For Your Healthy Hair



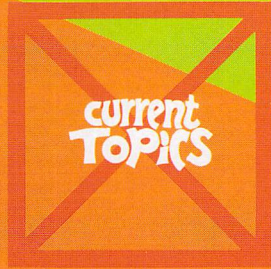
もし、あなたの髪がいたんでいたら、パイウェイドックコースを試してみるチャンス。パイウェイミストの自然回復力効果でいたんだ毛髪や頭皮が健康な状態にもどります。また、育毛・発毛促進の効果もあるので、さまざまな髪の悩みをお持ちの方にお勧めです。



京都市左京区下鴨本町11-8  
カモビル2F  
0120-351-384  
(予約フリーダイヤル)  
営11:00AM~9:00PM  
(金曜)~0:00AM年中無休



# BACK STAGE



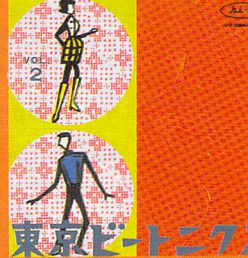
『東京ビートニクスVOL.1』  
ミック・カーティスとシディ・クロウズ  
他／東芝EMI



『東京ビートニクスVOL.2』  
内田裕也 尾藤いさな他／東芝EMI



『東京ビートニクスVOL.1』  
かまやつひろし 沢たまき他 テイチク



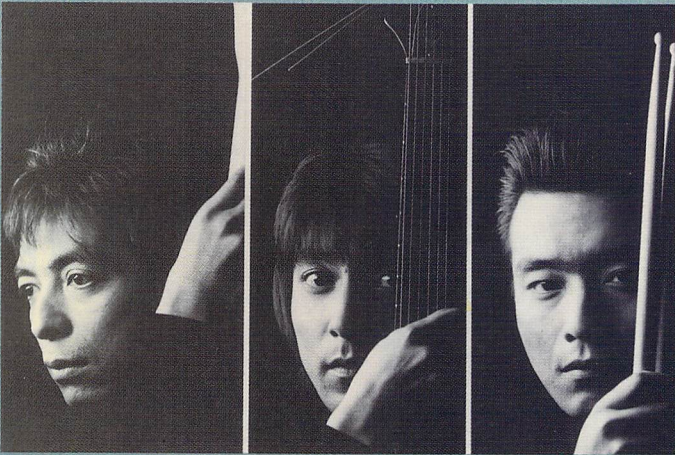
『東京ビートニクスVOL.1』  
中野のぶ スリーキヤッチ他／日本コロムビア

「ということなんですわ。」  
「それはあるね。マンボボーイズがうま  
くクラブにハマったのは、ロンドンパー  
カッションで、今までのDJと違って  
華やかさを持ちつつも即席でできるっ  
ていう良さだったから、それを見逃す  
手はないな、と。ダットを持って行っ  
てフェーターに繋げばすぐできるわけ  
だから、そういう手軽さがいい。古い  
ものを新しい手法でやるということは  
これからもやっていきたい。マンボ  
ボーイズとは音楽的には違っても、そ  
ういう意味じゃ同じ。ただこれはビー  
トニクスのイベントのためのもので、  
これから続けていくかはわからない。  
これからはフテン音楽と大人の音楽(っ)、  
「恋は水色」みたいな、そういうものは  
続けてやっていきたいんで」

「ところで八重樫さんが誰かをプロ  
デュースするという計画はありますか。  
「したいと思ってる人はいっぱいいるん  
ですけどね。」ちあきなおみ、ベギー・  
リーを歌う」とかさ。歌の上手い人を  
今のサウンドで歌わせてみたいな、と  
いうのがずっとありますよね。あと、活  
ゆるこのハワイアン・アルバムとか  
結構出してみたいな、そういうのを(笑)  
「今後はやはりソロ制作が中心だよ」  
「フテンのいいアルバムを作りたいとい  
うのがあるから、ソロというよりも、  
ある種のチームで自分のやりたい方向  
でフテン・サウンドをやってみたい  
というのがあります。それが今のこ  
ろいちばんの課題ですわね」

取材・文 早川加奈子 協力/テイチク





THE BRICK'S TONE

# INTERVIEW THE BRICK'S TONE

取材・文 早川加奈子 協力 / ARBオフィス、BMGビクター

まずライブありき、で  
アルバムは作られた。

91年、元ブレイカーズの篠原太郎、大槻敏彦、元ターキースの古川英俊の3人でブリックス・トーンは結成された。92年8月にシングルデビュー。その後2枚のシングルを発表。そして遂にデビューアルバム「JACK・IN・THE・BOX」がリリースされた彼ら。ブリック・トーン・ロックを核としたそのサウンド／ヌレディは、ポップかつ骨のあるロックとしてアルバムに表れている。今回メンバーの篠原氏にインタビュー。

— やっとアルバムが出ましたね。それまでにシングルが4枚出て、小出しには聴けてもやっぱりフルで聴いてみたい、と思ってたんですよね。『それはずっと僕も思ってたんですけど…。まだブリックス・トーンを知らない人達にはまずライブを知ってもらいたいという気持ちもすごく大きいです。アルバム1枚出して一回ツアーをしてのちアリなんですけども、それよりもシングルを小まめに出してでもとにかくライブを何度も何度も演りて来たかったし、その意味で、楽しみにしててくれる人が増えるように、アルバム前にシングルを4枚出したんで、そういう「聴きたかった」という言葉を僕らは聞きたかったんですよ。ちょっとツラしたという気持ちもあって、いよいよ、という感じでこの日も盛り上がったわけなんですよね」

— ブリック・ストーンとライブは切り離して考えられないという感じですね。『そうですね。やっぱりライブをいい感じに演らさないとこの助けるべくアル

バムを聴いてほしい。アルバムを聴いて曲を知っていると、ライブではさらに盛り上がるじゃないですか。そういう意味でも、今回のアルバムを作る上には自分達の演ってるライブをいい感じでCDで聴けるようになっていこうがある。やっぱりライブを中心に考えてます」

— バス・ドラムやストリング・アクトのオーブニング・アクトをされたことで、ブリックス・トーンを知った人も少なからず、だと思いませんか。『例えばブリックス・トーンを目当てにやってくる人達の前で演ってもね、結構感動や評判や反応が良くて嬉しいんですけどね。いちばん嬉しかったのはね、ストリング・アクトのジャン・ジャック・バーネルに「ハイ、ナイスバンド」と言われたことですね」

— やばい憧れのバンドのひとつや『やっぱりね、カッコイイなと思ってたバンドのひとつだし。ジャン・ジャック・バーネルって人には、自分でもベースをやった頃もあつたから憧れてたし。結構いいなってね。そんな人とまじか居酒屋で一緒に飲めるなんて思っませんでした笑」

— ライブでの共演以外に、彼らと何か共演する、なんて話は？

『ジャン・ジャックが、(ロンドン)のウチのスタジオに来てレコーディングしたんですけど、言ったらいいんですけど、そうなるって当然自分がプロデューサーって言い出すだろな、と。とにかく共演というより、色々教えてもらった感じだったから。キャリアの差も大きいし。だけど共演とかプロデュース

をしてもらうということがあったら楽しいな、と思いましたね」

— 他に共演してみたいバンドは？

『ファイヴ・サーティとか。アルバム結構好きでしたしね」

— ところでアルバムの中には、曲のタイトルや歌詞の中に沢山のJACKが出てきますが、このJACKって？

『JACKって男のコとかヤツっていう意味もあるから、(JACK)を自分のコトとして、聴いた人がJACKになってほしいなというか。代名詞としてのJACK、かな」

— アルバムを作る段階でそれは既に念頭にあったコンセプトということや、いや逆に、今やっていることを一つにまとめるJACK・IN・THE・BOXにぴったり箱ってことだから、全体がびっくり箱みたいな感じで、色んなものが飛び出すということなら、タイトルとしてもいいかなって。だから後から決まったんですね」

『好きか嫌いか、という価値観で判断できる人にまず聴いてほしい』と語っていた篠原太郎の言葉には、謙虚なニュアンスの中に確かな自信が感じられた。メンバー3人全員がボーカルを取れる、というのも強味のひとつのブリックス・トーン。とにかく来週に行われる碟碟でのライブに足を運んでみるのがいいだろう。もちろんその前にアルバム「JACK・IN・THE・BOX」を聴くのを忘れなく。④

④ 4月27日(火)7PM / 品確碟 / ④075・351・1321



# WHAT'S NEW?

7年振りのシャーデー  
来日公演の同伴指数は?



◆Sade / 6月28日(月) 7:00PM / 凸フェスティバルホール / ⑤S6、500円A6、000円 / ⑥06・341・4506

花見の宴も終わり、そろそろ初夏の準備直前、には7年振りの来日を果たすシャーデーのコンサートが相応しい。新作『ラヴ・テラックス』で、不変のヴォーカル/サウンド・スタイルに揺るぎない自身の世界を構築させ、流行のジャズ・ブームで飛びつくリスナーを静のタイナリズムでピラせる。また、ともすればAORなトレンディのマス・アイテムとして軽視或いは敬遠されてしまいそうなくらいスタイリッシュなサウンドだが、そこには刹那的に大量生産↓消耗される音楽とは全く異なった感触がある。トーキング・ラウドやブルー・ノートが騒れようが、騒れまいが、本質的にその感覚がジャズ的なものをコアとしているのだ。そしてそれはラヴ・ソングである。恋愛

だけに限らない不変のラヴ・ソングなのだ。だからこそ普遍的に普及するのだ。ま、そのせいでヘソ曲がりの通ぶりに達しに軽んじられるわけだが、そんな先入観を抜いて考えると、やはりコンサートはチェックしておきたいものだ。他に、ニューエストモデルのライヴやエイドリアン・シャーウッド/ゲイリー・ケイルのON-U・SOUND SELECTIONも要チェック。本誌もブッシュ、のゴージャスでスタイリッシュなビッグ・バンド、ザ・スリルのライヴも見逃したくない。また、詳細は未定だが、お洒落でムーディな都会のサウンドで注目のトーキー・ケールズ・コンボをフィーチャリングしたイベントもある。ピチカートの小西氏、コレクターズに加藤氏他参加。④

■ニューエストモデル / 4月23日(金)、24日(土) 7:00PM ~ / 凸クラブクアトロ / ⑤4,120円(1D付) / ⑥06・454・8834 ■エイドリアン・シャーウッド / ゲイリー・ケイル 『ON-U SOUND SELECTION』 / 5月20日(木) 8:00PM ~ / 凸クラブ・ジョグリンシティ / ⑤4,000円(1D付) / ⑥06・361・0313 ■ザ・スリル / 5月12日(水) 7:00PM ~ / 凸クラブ・クアトロ / ⑤円(1D付) / ⑥06・454・8834

# 「サタデー・ナイト・ライブ」登場!

遂にビデオ化、噂の全米人気テレビ番組。

まだ観てないとは言わせない。遂にビデオで登場した「サタデー・ナイト・ライブ・スペシャル」/1975年10月に米NBCテレビにて放送開始、幾度かレギュラーメンバーを入れ替えるから17年間も続いているという世界史上最高のバラエティショー。この全米熱狂のおぼけ番組こそがサタデー・ナイト・ライブなのである。以前からフリークの間で話題にはなっていたものの、日本ではほんの一部がTVの深夜枠やビデオで観られる程度という扱いだった。そこで涙をのんでいたファンのために、長年のプログラムのなかから名場面を集めた「サタデー・ナイト・スペシャル」と、SNLの「コーナー」で映画にもなった「ウェイズ・ワールド・スペシャル」がようやく発売されたのである。「SNLスペシャル」に収録されているのは、90年に、15周年を記念した特別版。登場するレギュラー陣が凄い。故ジョン・ベルーシ、ダン・エイクロイド、チェビー・チェイス、エディ・マーフィ、ビリー・クリ

スタル et c. et c. 日本じゃ映画でしかお目にかかれないが、あちらじゃ毎週土曜日にチャンネルを合わせれば見られるんだからつくづくアメリカっていいよな、と思うのだ。内容の方は、これがギャグ&コントのてんこ盛り。パロディあり下ネタあり「ここまでやるか」のバカバカしさだ。でもこれってどこかで観たことあるぞ。ミツパチのかぶりものをかぶったベルーシ、ゲストに懺悔させてしまう女装のダナ・カービー、放送禁止用語を連発するエディ・マーフィ…これはまさしく「ひょうきん族」の世界ではないか? フジテレビのお笑いのルーツはここにあったのだ。これに対して、毎回登場するゲストの顔ぶれも超ゴージャス。ステイプ・マーティン、トム・ハンクス、マドンナ、ロビン・ウィリアムスなどなど。いきなり出てくるマドンナなんぞ、思いつき自分をパロってしまおうというサービスぶり。他では絶対に拝めないであろう、大スター達がお笑い

に徹する姿には頭が下がる。しかし単純なギャグだけではない。そこはアメリカ、大人の番組。シニカルな笑いもたっぶり含んでいる。例えば黒人の囚人が「白人は殺っちまえ」と声はあげて歌ったり、英語が話せないギリシヤ系移民をおちくったりとアブない人種ネタもソロソロ。(ベルーシの人気キャラには、着物を着て日本刀を振り回しながら意味不明の言葉をわめきちらす「サムライ」という日本人のパロディがあるのだ。とほほ) もし普通のひとが街角でこれをやったら殴られかねないギリギリのジョーク。しかしSNLの素晴らしさは、言ったほうも言われたほうも心から楽しんでしまつところだ。なにせ黒人差別のギャグに客席の黒人が大笑いしてるんだから。ここでは肌の色も国民性も、差別ではなく、ちやかしのネタにすぎないのだ。このへんがいかに根アカで嬉しくなつてしまふ。次々と時代に残るコメディアンを生み出すサタデー・ナイト・ライブ。知らないひとには入門編ともいえるこのビデオ?本は観て損なし/絶対だ。④



## '93 京都学生まつり 「京から明日へ」BLOW UP!

京都は「学生の街」。だが近年、大学の市外流出で学生の数も減少する一方だ。しかし今年もまた京都学生まつりの時期がやってきた。最近の学生はおとなしくなつたと聞かすが、このイベントを見る限りは大丈夫のようである。当日はパレードや創作展、パフォーミングス他、大学を超えて学生間のコミュニケーションが広がる『巨大学園祭』だ。

■93京都学生まつり  
日時・5月23日(日)12:00PM~5:00PM  
場所・鴨川河川敷 御池4条

## 東京番組「火男の火」 平安時代のシラノ? 醜い男の物語。

本来、人間とは何によって結ばれ、そして何によって離反するのか。恋愛や憎しみの原型ともいえる剣き出しの感情が舞台の上にはきだされる。東京吉組の今回の芝居は原田宗典原作、大谷亮介演出の、醜い「火男」の物語だ。関西は京都、大阪両公演あり。

■東京吉組「火男の火」  
日時・5月7日(金)~9日(日)近鉄小劇場  
5月10日(月)京都府立文化芸術会館  
料金・前売り3,600円、当日3,800円  
問い合わせ・チケットぴあ、チケットセゾン

